ばすように援助するとともに、一人一人の違いを大切にしたいという考えに立ち記入した教師の援助・評価カードの例が、下記のＳ男のものである。

単元名　秋となかよし　　NO.8

児童名　Ｓ男

観点	具体的な観点	児童の様子
① 事前の活動体験	木の葉、実、草花の遊び、製作	遊んだことがある。どんぐりごまを作った。
② 事前の興味・関心	木の葉、草花の遊び	きらい。つまらないから
③ 事前の生活習慣・技能	はさみ、のりなどの使い方	上手に使える。サインペンを使っていた。折り紙も
④ 友だちとの協力・協調	仲よく、楽しく活動する	雄太といっしょにこま作りをしていた。こまの競争
⑤ 活動意欲・積極性	進んで集めたり、作ったりする	同じ大きさのどんぐりをさがしていた（やじろべえ）
⑥ 根気・持続性・創意工夫	材料選び、製作の工夫と意欲	どんぐりごま、やじろべえ、おきあがりこぼしを作った。やじろべえを同じ長さにするのに苦労していた。
⑦ 自分への気付き	※季節に合った生活、自分の成長	ぎょうさつのこまを作った。青と緑の光る色がきれいだった。
⑧ 社会や自然への働きかけ	木の葉、実などの観察と関心	学校の周りでも木の葉や松ぼっくりを見つけてきた

その他　◆「ぼく・わたしの木」に対する思い‥特に記入していなかった。本人に聞いたところ、どの木だったかを忘れてしまったという。

下表は、観点別評価規準を基に作成した児童の到達度である。

児童の自己評価（「できたぞカード」）、感想文、木の実や木の葉の作品、教師の観察に基づく援助・評価カードを生かしながら、三つの観点について総合的に評価した。

5　単元の観点別到達規準の作成と活用

今回の研究は、一つの単元全体の実践だったので、「秋となかよし」の観点別評価規準を作成し、その到達度を確かめてみたいと考えた。

評価規準の作成に当たっては、福島県教育委員会発行の「改訂　指導要録記入の手引」を参考にしながら、生活科の三つの観点である“生活への関心・意欲・態度”“活動や体験についての思考・表現”“身近な環境や自分についての気付き”に関して、それぞれにＡ（十分満足できる）、Ｂ（おおむね満足できる）、Ｃ（努力を要する）の規準を具体的に作成してみた。

観点別評価規準の例

観点・趣旨	観点別到達規準の例	A	B	
生活への関心・意欲・態度 身近な環境や自分自身に関心をもち、進んでそれらとかかわり、楽しく学習や生活をしようとする。	秋の公園で草花や木の実などを集めたり、楽しく遊んだりしながら、友達とのかかわりを広げることができる。	秋の公園や登下校中に、草花や木の実などを意欲的に集めたり、楽しく遊んだりしながら、進んで友達とのかかわりを広げている。	秋の公園で草花や木の実などを集めたり、遊んだりしながら、友達とのかかわりを持とうとしている。	秋のや木あまさずかい。
活動や体験についての思考・表現 具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現する。	木の実や木の葉などの身近な素材を使って、飾りや遊びに使うものを作ったり、遊び方を工夫したりすることができる。	木の実や木の葉などの身近な素材の特徴を生かして、飾りや遊びに使うものを作ったり、遊び方を工夫したりしている。	木の実や木の葉などの身近な素材を使って、飾りや遊びに使うものを作ったり、遊んだりしている。	木のなど材をりやもの作っだり少な
身近な環境や自分についての気付き				

個人別の到達度

	生活への関心・意欲・態度			活動や体験についての思考・表現			身近な環境や自分についての気付き		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C
1	○			○			○		
2	○			○			○		
3		○		○				○	
4		○			○			○	
5		○		○			○		
6		○		○				○	
7		○			○			○	
8		○		○				○	
9		○			○			○	
10		○			○			○	
11		○			※ ○			○	
12		※ ○			○			○	
13	○			○			○		
14		○		○				○	
15	○				○			○	
16	○				○		○		

その結果、Ｃに該当する児童は一人もいなかった。欠席した児童（※印）については、単元の活動全体を勘案して評価することにした。

Ⅲ　研究のまとめと課題

第１学年の「秋となかよし」の単元について、地域の学習素材を生かした指導構想を立て、児童の活動を見取り、どのように援助すればよいかを実践的に研究した。その結果、次のことが確認できた。